

鬼は外 福は内



◇新年を迎え、はや1ヶ月が過ぎました。

2月と言えば節分ですが、今年は、124年ぶりに「節分」が2月2日なのだそうです。

◇「節分」は文字通り「季節の分かれ目」。昔は「立春」「立夏」「立秋」「立冬」のそれぞれの前日を節分と言っていましたが、現在では立春の前日のみを節分と言っています。季節の変わり目に起こりがちな病気や災害を鬼に見立て、それを追い払う儀式が、豆まきなのだそうです。昔は桃の枝を使って追い払っていたそうですが、室町時代頃より豆にかわってきたようです。

◇「立春」を含む二十四節気は、太陽と地球の位置関係から天文台が日付を割り出し毎年公表しているそうです。私たちは1年は365日だと認識していますが、実際に太陽の周りを地球が1周する1年(1太陽年)は、365.2422日なのだそうです。この「2422」という半端なズレが積み重なる中での計算なので、節分は毎年2月3日(立春が毎年2月4日)だと決まっているわけではないのですね。暦や天文について調べてみるのも面白いですね。

◇1年生の教室には子供たちが作った鬼のお面が置いてありました。紙袋を使って1人1人、自分の鬼を作ったそうです。子供たちにはそれぞれやっつけたい鬼がいるそうで、子供たちに聞くと「めんどくさいオニ」「わがままオニ」などと教えてくれました。

◇3年生の教室の外側には、鬼のイラストがある短冊がびっしりと貼られています。そこにも子供たちがやっつけたい鬼を書いていました。「よくばりオニ」「さぼりオニ」「ゲームオニ」「かたづけしないオニ」などなど。子供たち自身が今の自分よりもよくなりたと思っていることが伝わってきます。

◇子供たちのそのような気持ちを大切に、「心の中の鬼」を追い出し、子供たちが「前より成長した」と自分自身を感じることができるよう、教職員全員で引き続き取り組んでいきたいと思えます。ご家庭でもお子さんとゆっくり話し合い、お子さんがやっつけたいと思っている鬼を、「鬼は外！」と一緒に追い出してあげてください。そして、少しでも追い出せた時にはほめてあげてください。

◇今年度もいよいよ残り少なくなってきました。年明けから、新型コロナウイルス感染症が和歌山県でも増えてきています。学校でも感染対策をしっかりと行い、子供たちが毎日元気に登校し、1日1日の学校生活を充実させることができるよう取り組んでいきます。



あたたかく 炒られて嬉し 年の豆 (高浜虚子)

< 学校長 >

★貴志南小学校では、ホームページを設けています。<https://www.wakayama-wky.ed.jp/kishiminami/>

※写真等は児童個人を特定できないように配慮しています。